

⑪ 自然豊かな日本遺産井波のまちなみに、 地域資源で走る持続可能な公共交通網づくりプロジェクト

メンバー

実施者：一般社団法人 ジソウラボ

連携団体：井波地域持続可能な移動の仕組みづくり協議会、富山大学都市デザイン学部

活動目的

南砺市井波地域は、鉄道がなく、路線バスの本数が少ないことから、公共交通機関が利用しづらい。特に、子供たちを学校や習い事へ送迎するためや、高齢者を病院や買い物へ連れていくために、家族が送り迎えの負担を強いられている状況にある。そのような状況のもと、webアプリケーションを用いて自家用車での相乗りを行うことにより、自動車を持たない住民も、目的地や公共交通機関にアクセスできるようにすることを目指す。

対象地域：富山県南砺市井波地域

人口：

約8,000人

世帯数：

約2,600世帯

高齢化率：

36.1%



取り組み内容

キーワード：IT活用／自家用車の活用

- [1] 協議会を設立と会議の開催：8月に発足し、会議を年3回実施した。
- [2] ワークショップの開催：住民24名が参加し、コミュニティ・ライド・サークル（CRC）や交通について話し合った。
- [3] ITC を活用した自家用車の相乗り運行（CRC）：（下記「2020年度の活動実績」を参照）
- [4] CRC に関するアンケート調査：14名の回答を得た。CRC を利用したい場面や、CRC がどのようなサービスであれば利用したいかを問い、そのことについての回答を得た。

2020年度の活動実績

コミュニティ・ライド・サークル（CRC）実証実験：地域の自動車を持たない方が目的地や公共交通機関にアクセスできるようにすることを目的として、2021年3月29日から実施。ボランティア運転手5名、利用登録者数11名、利用者数0名。



取り組みが地域に与えた影響

専門家コメント_グローバル交流推進機構

- 量的な影響
 - ・ CRC の利用登録が11名となり、ドライバーについては、5名確保されるなど、仕組み自体への協力体制は整っている。
 - ・ ワークショップに住民24名が参加した。
- 質的な影響
 - ・ 井波地域持続可能な移動の仕組みづくり協議会のメンバーに、自家用車の相乗りにおける制度上の問題点が共有された。

「土徳」という支え合い文化がある地域特性を活かして、地域住民自らがドライバーとなり、それぞれの持ち込み車両を活用しながら（コミュニティ・ライド・サークル：CRC）、地域全体で送迎負担をシェアしていく取り組みです。

取り組みで得た知見（これから取り組む方に伝えたいこと）

路線バスやタクシーが走っている地域で自家用車の相乗りを行う場合は、道路運送法上の「許可・登録を要しない運行」という枠組みになるが、保険料の支払いが可能である組織に制約がある。また、移動支援サービスに対する自動車保険は既に商品化されているが、保険料が比較的に高額である。

2021年も、移動ニーズの明確化や移動コミュニティの育成を通して、支え手、利用者のすそ野を広げていく予定です。